

ピロリの除菌～診断・治療の流れ～

ヘリコバクター・ピロリ感染症が疑われる患者さんのうち ※1

- ① 内視鏡検査または造影検査で胃潰瘍または十二指腸潰瘍と診断された患者さん
- ② 胃MALT(いまと)リンパ腫(しゅ)の患者さん
- ③ 特発性血小板減少性紫斑病(とくはつせいけつしょうげんしょうせいしはんびょう)の患者さん
- ④ 早期胃がんに対する内視鏡的治療後胃(ないしきょうてきちりょうごい)の患者さん
- ⑤ 内視鏡検査で胃炎と診断された患者さん ※2

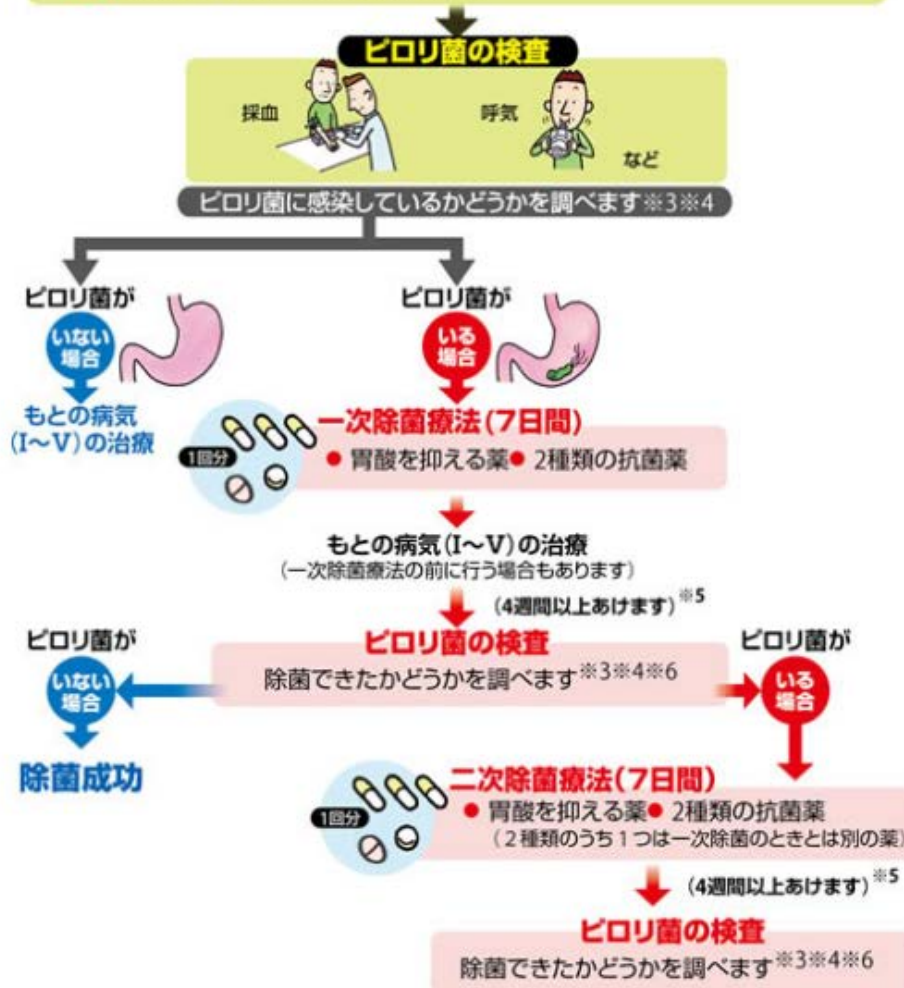
宮崎江南病院 薬剤師

慢性胃炎(ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎)

ピロリ菌が胃の粘膜に感染すると炎症がおこります。感染が長く続くと、最終的には慢性胃炎となります。この慢性胃炎をヘリコバクター・ピロリ感染胃炎と呼びます。

ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎が胃潰瘍、十二指腸潰瘍、萎縮性胃炎をひき起こし、その一部は胃がんに進展します。

ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は除菌が成功すると改善します。



ピロリの除菌療法を受ける前に・・・

以下の項目にあてはまる方は、事前に必ず主治医に申し出てください

- ✓ これまでに薬を飲んでアレルギー症状を起こしたことのある方
- ✓ ペニシリン等の抗菌薬を服用時に、ショック等の重篤なアレルギー症状を起こしたことのある方
- ✓ 抗菌薬や風邪薬で副作用を経験したことのある方



ピロリの除菌療法～まずは1次除菌～



1種類の「胃酸の分泌を抑える薬」と2種類の「抗菌薬」の合計3剤を同時に1日2回、7日間内服

確実にピロリ菌を除菌するために、指示された薬は必ず服用することです。自分の判断で薬を飲むの中止したり、薬を飲み忘れたりすると、除菌がうまくいかず、治療薬に耐性をもったピロリ菌があらわれることがあります。耐性とは薬に対して細菌が抵抗性を示すようになり、その薬が効きにくくなることです。

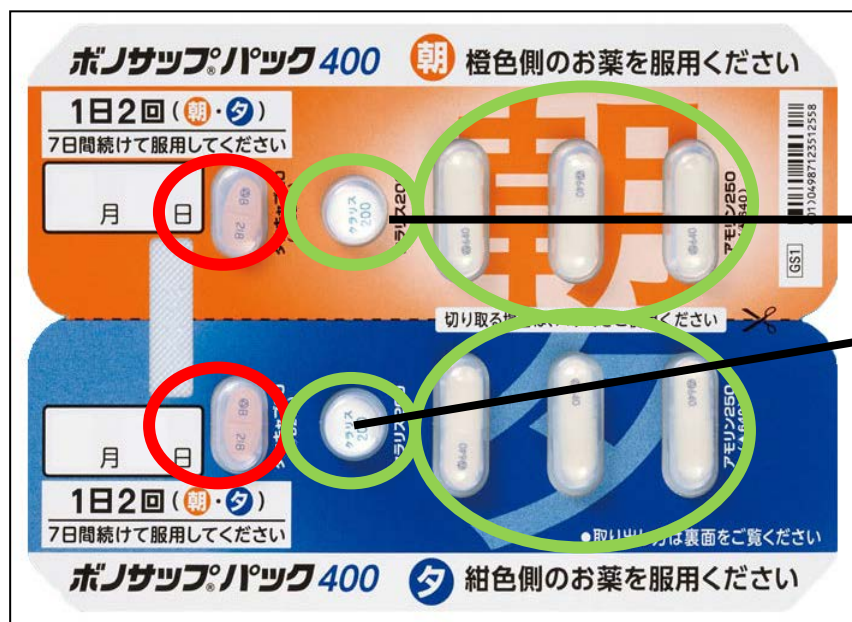


正しく薬を服用すれば1回目の除菌療法の成功率は約75%といわれており、最近では約90%とする報告もあります。

ピロリの除菌～2次除菌～

1回目の除菌治療で除菌が出来なかった場合にはお薬を変えて再度除菌療法を行うことが可能です(2次除菌)。

2回目の除菌治療では約90%の患者さんで除菌ができます。



1種類の抗菌薬を違うお薬に変更し、合計3剤を1日2回、7日間内服



除菌治療時の注意点

喫煙をすることにより、胃粘膜の血流が低下し、除菌治療の成功率が低下するという報告があります。



2次除菌治療時に使用するお薬（メロニダゾール、フラジール®）は、アルコールと相互作用を起こします。



➤ 除菌治療中は**禁煙**しましょう

➤ 除菌治療中は**飲酒**は控えましょう

お薬の相互作用



相性のよくないお薬があります。
お気軽にご相談下さい。

睡眠薬



血液
さらさら



除菌療法の副作用について

除菌療法を始めると、軟便、下痢、味覚異常などの副作用がおこる場合があります。



軟便



味覚異常

- 軟便、軽い下痢などの消化器症状や味覚異常が起きた場合

自分の判断で、薬を飲む量や回数を減らしたりせずに、残りの薬を最後まで(7日間)飲み続けてください。ただし、服用を続けているうちに下痢や味覚異常がひどくなった場合には、我慢せず、主治医または薬剤師に相談してください



発熱



下痢



発疹やかゆみ

- 発熱や腹痛を伴う下痢、下痢に粘液や血液が混ざっている場合、または発疹の場合

直ちに薬を飲むことを中止し、主治医または薬剤師に連絡してください。

除菌療法後の注意点

除菌療法に成功した患者さんのうち、少数の方に逆流性食道炎の発生が報告されています。

これは、ピロリ菌の除菌によって、低下していた胃酸の分泌が正常に戻ったために一時的に起こると考えられています。

ただ、症状は軽微あるいは無症状の場合が多く、治療が必要となるケースはまれです。



- ◆ みぞおちの辺りから胸の下の方へかけて、焼けつく、あるいは、熱くなるような不快感がある。
- ◆ 喉のほうまで上がってくる感じがある

これらの症状がひどい場合は、主治医または薬剤師に相談してください。